

サーキット・ライダー 2007年11月号

感謝は学ぶもの

主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。あなたがたの広い心がすべての人に知られるようになさい。どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。

フィリピの信徒への手紙4：4-7.

10月に博士論文に掲載する日本庭園の写真を撮るために一時帰国し京都の名所を父と共に回ったり、母の誕生日に丸々一日一緒に過ごしたり、懐かしい友と会ったり実に恵まれた楽しい時を過ごしました。今回、京都への旅や青森八戸の相良昌彦牧師一家を訪問する際に新幹線に乗りました。子供の頃新幹線と言えば「夢の超特急」でそうそう乗れる物ではありませんでしたが、今や通勤に利用する人も多いとのこと。新幹線に乗りながら、随分と変わったものだ・・・と思わずにはいられませんでした。その新幹線の中での出来事です。

私の隣に若いお母さんが6ヶ月の赤ちゃんを連れて乗り込んできて座りました。6ヶ月の赤ちゃんと言えば泣くのが仕事のようなもの。入ってきて座ると間もなくぐずり出しました。私は本を読んでいたのですが、お母さんが一生懸命赤ちゃんをあやすのを感じて、何気なく彼女を、そして周りを見ると、出張で、或いは通勤で乗ってきたサラリーマンやサラリーウーマンが多数前後に乗っていたのですが、そのうちの幾人かが、赤ちゃんが泣くたびに、顔をしかめたり、迷惑そうなため息を吐いたりしているのを見ました。お母さんは居た堪れなくなっただけでしょうか、赤ちゃんをあやすために立ち上がり、乗客席から出入り口のデッキに出て行きました。暫くして赤ちゃんがおとなしくなったので、席に戻ってきましたが、相手は6ヶ月の男の子です。一度は泣き止んだものの時間の問題でした。またぐずり始め、お母さんはさっきの周囲の視線を感じていたのでしょうか、膝の上で赤ちゃんを一生懸命あやして泣かないようにしています。私はその様子に思わず「少しくらい良いんじゃないですか。」「お幾つですか?」と話しかけ、その折にその子が6ヶ月の男の子であること、実家から東京に戻るところであることなどをお母さんから聞きました。その若いお母さんは私の言葉にホッとしたようで、赤ちゃんが時折泣いてもそのまま席に座り、私も読書を続けました。東京駅に着いて、皆が我先にと下車する中、そのお母さんが窓際に座っていた私に「どうぞお先に」と声を掛けてくれました。私は「荷物がありますから、お気にせずどうぞ。」と応じ、お母さんがバギーに赤ちゃんを固定するのを見計らって立ち上がりました。彼女が下車する直前、「お心遣いありがとうございました。」と丁寧にお辞儀したので、こちらもお礼を言いました。何気ないやり取りでしたが、彼女の感謝の気持ちが伝わってきた瞬間でした。

今日、このようなやり取りや感謝を表すことが少なくなったように思います。何かしてもらってもさも当然という風に、感謝の言葉など一切口にしない。自分だけが良ければそれで良い。特に日本でそんな人間が増えたように思えてなりません。アメリカでは結構 Thank you は日常茶飯事に聞きます。まあこちらの Thank you や I love you の類は、本当に心がこもっているのか疑問に思うこともあります。でも言わないでいて「目は口ほどに物を言い」とか「以心伝心」などどうそぶいているよりは良いでしょう。

「感謝」は実は自然にできるものではありません。学ばなければ、感謝する気持ちになることも、感謝を表現することもできません。それには物に感じる心が必要であり、自分が多くの人の厚意に預かり、神の恵みを受けているということを知らねばなりません。さもないと、ご飯が出てきて当たり前。テレビやコンピューターがあつて当たり前。学校に行けて当たり前。でも他人が自分の持っていない物を持っていたりすると、ひがんだり、欲しがったりする。また自分の家柄、育ち、学歴、職歴などを自慢したり、卑下したりと人と比べてしか自分を評価できない卑しい人格になってしまいます。

何故人は思い悩むか。それは満たされない思いがあるからです。どんな時でもどんな状況でも満足できれば、感謝の気持ちが自ずと出てくる。パウロがこのフィリピン人への手紙を書いた時、彼は獄中にいました。彼は伝道旅行の最中に迫害され、暴力を受け、自由を奪われ、最後は殉教していますが、どのような苦しい状況にあつても、決して自分を悲観したり、思い煩うことなく、常に神に感謝してその生涯を送りました。私たちも心を開け放ち、イエス・キリストに全て委ねれば、パウロの言うところの人知を超えた神の平安が心に訪れます。そのことを信じ、良い感謝祭をお迎えください。 吉松 純

礼拝は日曜日午後4時です。Jr.教会(日曜学校)も4時からです。

- 11月 4日：礼拝、聖餐式、Jr.教会：バザーの準備、お手伝い。冬時間の始まり。時計を1時間遅くします。
11日：礼拝、Jr.教会：自由。
18日：礼拝、Jr.教会：感謝祭の準備。エキュメニカル合同感謝祭礼拝(英語)。
25日：礼拝、Jr.教会：古切手の切り取り。
12月 2日：礼拝(午後3時より)、聖餐式、Jr.教会、アドベント・リース作り。礼拝後、グリーンング=教会の飾りつけ。

行事予定と報告

- * 洗礼準備聖書勉強会：毎週日曜日礼拝前の午後3時より。洗礼を受ける決心をしたかた、またまだ迷っている方、何も分からない方、皆歓迎します。
- * 毎週月曜日、午後7時：ハンドベル聖歌隊(英語)。
- * 毎週火曜日、午前10時：聖書研究会(英語)。パウロの書簡を学びます。
- * 毎週木曜日、午前10時：アメリカ人教会員指導によるクッキング・クラス(英語)。
- * 毎週木曜日、午後7時：聖歌隊(英語)。英語が苦手でも讚美できます。どなたも歓迎。
- * 毎週木曜日、午後8時：聖書朗読と祈り。
- * ユース(中高生会、英語)は第二、第四日曜日の午前9時。

お知らせ：

- * 11月9日(金)10日(土)にアメリカ人会衆主催によるバザーがあります。バザーのお手伝いをしてくださるボランティア、買い物客それぞれ大歓迎です。ボランティアできる方は教会オフィスまでご連絡下さい。
- * 11月18日(日)午後7時30分、合同感謝祭礼拝(英語)当教会で午後7時30分より。プロテスタント、カトリック、ユダヤ教が一堂に会して礼拝を守ります。是非ご出席ください。
- * 11月22日(木)午後5時より、感謝祭礼拝があります。礼拝で食べ物(スパゲティー、缶スープなど)を捧げ、それを町のFood Centerとホームレスシェルターに献品します。どうぞご用意ください。また礼拝後、午後6時より持ち寄りで祝会をします。教会で七面鳥を用意いたしますので、皆様何か一品お持ち下さい。

感謝とお祈りのお願い：

- * 毎週木曜日のアメリカの伝統料理を習うクッキング教室は8名の申し込みがあり充実したプログラムを持ってました。11月15日が最終回。ここまでこれましたことを感謝いたします。春にはフラワー・アレンジメント、第二期クッキング教室を予定しています。
- * 吉松牧師の留守中、礼拝を守って下さった教会員、ウエストチェスター・ユニオン日本語教会の浅田容子牧師に心よりお礼申し上げます。

御協力お願い致します。献金のあて先はUMC-JAとし、寄付のあて先をNoteに記してください。

- * ハーベスト・タイム放映の為、献金、お祈りのご協力をお願いいたします。
- * 消印のついた切手の周り1センチの余白を残して切り取って下さい。切手は日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)に送ります。JOCS海外に医療関係者を送ると共に医療関係者の育成をしています。
- * ケニヤの恵まれない子供達やエイズの患者さん為に特別献金をしています。ご協力下さい。
- * パターソンのSt. Philip伝道と社会福祉団体CUMAC/ECHOの為に。どちらもメソジスト教団に属し、貧しい人達の為の炊き出しと路傍伝道をしています。

連絡先：英語オフィス(201) 391-5499 日本語オフィス兼ファックス(201) 505-0347

吉松牧師(201) 391-2208 pastor@umc-japan.org 代表役員：松尾孝恵姉 Takae17A@aol.com

教会学校担当：吉松 泉姉 izumi.yoshimatsu@gmail.com ホームページ：<http://umc-japan.org>